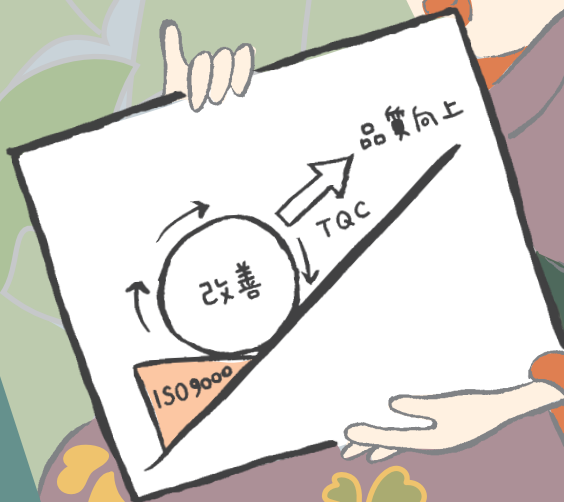


アイソスの
回文かるた

あ

あ

あなたつかつ
たなあ





あなた、使ったなあ！

ISO 9000 を古くから勉強している人ならよくご存知なのが、この絵の女性が持っている「ISO 9000 は楔（くさび）である」の図。

ここでいう ISO 9000 は94年版のことです。

90年代中頃までは、よくこんな会話が交わされました。

「ISO 9000 を導入したが、品質はちっとも良くなりません」

「当たり前だ。これは品質システムを維持するための規格であって、向上させるための規格ではない」

この「維持」と「向上」の関係をわかりやすく表現するために生まれたのが、品質を向上させるのはTQC（TQM）であり、向上させたレベルを維持する楔が ISO 9000 である、という図です。

この関係図は、当時、いろいろなセミナー資料、業界パンフレット、書籍などに採用されました。が、採用に当たって、出典を明記したものはほとんどありませんでした。

いったい誰がこの図を考えたのでしょうか？

ISO 9000 を楔にたとえるアイデアは、なかなか独創的ではありませんか。

このアイデアを思いついた人は、あえて「あなた、使ったなあ！」と主張せず、ISO業界でのオープンな使用を希望したのかもしれませんが。

あるいは、いつの間にか無断使用され、そのうちに誰もがこのアイデアは著作権フリーだと思ってしまうようになったのかもしれませんが。

とにかく、いろいろな人が過去にこういったアイデアを考えながら、議論と実践を積み重ねてゆきました。

その末に、このような坂道を登っていく規格として2000年版が生まれたのだと思います。